

縛られるものに自由を ヨハネ8:31~36 / 李正雨師

今日は宗教改革記念主日です。ルターによる宗教改革が起こってからの505年も経ちました。多くの時間が経ったにもかかわらず、まだ宗教改革を記念して祝っているのは、宗教改革というものが単にキリスト教に限られたものではなかったからだと思います。今はキリスト教だけでなく宗教というものは、社会のいろいろなカテゴリの一つですが、当時のキリスト教は、そうではありませんでした。政治と経済、法律と裁判、倫理と道徳、さらに品物を商売することも、キリスト教の影響を受けていました。キリスト教が社会のあらゆる分野に介入していたので、宗教改革は単なる教会の改革ではありませんでした。教会から始まったこの改革は、人々の考えと生活を変えました。教育の必要性を感じさせ、上からの一方的な指示や教えに疑問を抱かせました。固定されていた社会が変わり始めたのです。だから数百年が過ぎた今でも、ルターの宗教改革は記念されており、人口に膾炙しているのだと思います。ルターによる宗教改革は、腐敗した宗教の改革ではなく、民衆の意識の改革だったからです。

このような宗教改革には、いろいろな意味を与えられると思います。それで、私は毎年宗教改革記念主日を過ごしながら、いくつかのテーマを持って説教をしてきました。そして今年度は、宗教改革に「自由」という意味を与えようと思います。今週、私たちに与えられた福音書が「自由」に関することでもあり、ルターの宗教改革もこの「自由」によって解釈することもできるからです。ルターの時代は、多くのことが閉ざされていて、縛られていました。例えば、聖職者でなければ、聖書を読むことができませんでした。教会は、民衆が聖書を読むことができないようにするため、聖書をラテン語でのみ翻訳し、教会ではラテン語によって礼拝を捧げていました。当時、ラテン語を読んで解釈できる人は、国民の5~10%くらいしかいなかったそうです。だから教育を受けられなかった多くの人々は、直接神様の言葉を読むことができず、無知の中で教会の教えに従うしかありませんでした。それだけでなく、教会には数多くのサクラメントと聖人たちがいて、それらを盲信していました。もちろんルターも、その影響を受けていました。ある日、ルターがエアフルトという場所に向かっていた時でした。当時のルターは、法学部の学生であり、エグフルト大学に通っていました。学校に行く途中、ルターは野原でいきなりの雷と稲妻によって恐怖に襲われます。命の脅威を感じたルターは、恐怖のあまりこのように叫びます。「聖アンナ様、お助け下さい。私は修道士になります。」もし今の私たちにこのような緊急なことが起きたら、私たちは聖アンナではなく神様に助けを求めましょう。しかし、ルターは聖アンナに助けを求めました。なぜルターは、聖アンナに助けを求めたのでしょうか。それは当時のルターの家は、鉱業をしており、聖アンナは、鉱夫たちの守護聖人だったからです。このように法学の生徒の道を歩いていたルターも、いろいろな迷信やサクラメントなどに縛られて暮らしていました。信仰の本質であるイエス様と神様の言葉が隠されていた時代、真理が何なのか分からなかった時代。その時代がルターの時代でした。

今日の福音書で、イエス様はこの「真理」について語られます。そして真理が私たちに自由をすることを言われます。今日の福音書31-32節の言葉です。「イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。『わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。』」自由という言葉はさまざまな意味で解釈することができます。抑圧からの自由、世論からの自由、社会の構造や差別からの自由など様々な意味で使われると思います。それで、多くの改革者や民衆の指導者たちは、このような自由を主張するとき、今日の福音書の言葉を持って使ったこともありました。しかし、イエス様が言われた自由の意味は、このようなことと違います。イエス様が言われた自由は、罪からの自由です。イエス様は人の肉や思想に関するものではなく、もっと根本的なことを言われたのです。

この根本的な罪の話は、すでに私たちがたくさん聞いた話だと思います。それで、ある方は、牧師が説教台で罪について言うと、また「罪の話か」と思うかもしれません。私も、教会で「罪」について話すことがどれほど飽きることをよく知っています。しかし、この罪は、単に道徳的や倫理的な罪を言うものではありません。聖書が語っている罪は、私たちがしばしば罪と呼んでいること以上のことを言っています。神様の教えから離れること、真理から離れること、それで霊の死に至らせることを罪だと言っています。ですから、聖書での罪は肉体的なもの、目に見えるものだけではありません。傲慢と憎しみと差別のようなものだけでなく、不信と欺くことと冒涇も罪です。先週、私たちはファリサイ派の人と徴税人の話を聞きました。そしてファリサイ派の

人がどれほど律法的に完璧な人なのかが分かりました。しかしイエス様は、このファリサイ派の人は正しいと言われませんでした。なぜなら、彼のしたことは神様の教えでもなく、真理でもなかったからです。彼が生きていた時代には、このようなことが罪ではなかったでしょう。しかし、神様にとっては罪であり、これによって彼は義とされませんでした。律法をよく守り、自ら自分は義人だと思いましたが、実は、彼も罪から自由になれなかった人だったのです。

ルターは、1532年2月に今日の福音書を持って説教しました。彼は自分の説教で「真の自由は罪からの自由」だと言います。もし私たちが自由になることを望むなら、罪からの解放から始めなければならないと言います。なぜなら、罪が私たちの中に居る限りは、自由になることはできないからです。それで、私たちは肉体的な自由について考えず、神様の前で自由になることと罪から自由になることに集中しなければならないというのがルターの説教でした。そして彼は、ユダヤ人たちが自由に対する欲望のために、自分たちは神様の民になるということだけに集中していたと指摘しています。これは今日の福音書33節によく示されています。33節の言葉です。「すると、彼らは言った。『わたしたちはアブラハムの子孫です。今までだれかの奴隷になったことはありません。「あなたたちは自由になる」とどうして 言われるのですか。』」

これはイエス様が言われた自由についてのユダヤ人たちの答えです。彼らは、今まで誰かの奴隷になったことはないと言います。本当に不思議な答えだと思います。当時、ユダヤ人は、ローマの支配を受けていたからです。聖書には書かれていませんが、ローマ以前には、バビロニア、ペルシャ、マケドニア、エジプト、セレウコスなどの順で続いて多くの強大国の支配を受けました。しかし、イエス様が自由について語られると、自分たちは誰かの奴隷になったのではないと言います。なぜユダヤ人はこのように言ったのでしょうか。彼らがこのように言ったのは、彼らには「アブラハムの子孫」という自負があったからでした。「神様の約束どおり、アブラハムの子孫は神の子孫となり、神の子孫は奴隷にならない。」これがアブラハムの子孫という言葉が持っている意味でした。

このような信仰は、彼らに真実を見ることができないようにしました。自ら自由の体だと信じさせ、自分たちは他の民族とは違うと考えさせました。これは、まるでルターの時代に、教会が真理を妨げていたことと同じでした。「アブラハムの子孫」という信仰は、彼らに現実的にも、信仰的にも全く役に立ちませんでした。むしろ他の民族を差別させ、罪を罪として認識しないようにしました。それでイエス様の時代のファリサイ派の人はそのように行動したのです。さらに、彼らはまったく自由ではありませんでしたが、自ら自由だと思っていました。信仰的に、アブラハムの子孫、神様の子孫は誰かの奴隷になったり、束縛を受けたりしてはならなかったからです。それで、イエス様は34節でこうおっしゃいます。「はっきりしておく。罪を犯す者はだれでも罪の奴隷である。」この言葉が意味するのは何でしょうか。誰でもアブラハムの子孫だとしても、罪から自由になったのではないという話でしょう。真理が何なのかを悟りなさいという言葉だと思います。しかし、ユダヤ人たちは悟りませんでした。今日の福音書であるヨハネ8章の最後の節には、こう書かれています。「すると、ユダヤ人たちは、石を取り上げ、イエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、神殿の境内から出て行かれた。」聞き苦しい真理よりも肉体的な自由をもっと願っていたからだだと思います。

聖書で語っている自由は、非常に根本的なことです。いかなる目的や方向性を持っているのではなく、人間の自由に関するもの、まさに罪からの自由に関するものです。それで私は、先に今日の福音書は一部の改革家や民衆の指導者たちに使われていますが、その意味は違うと申し上げたのです。罪は真理を妨げていて、私たちに縛ろうとしています。イエス様の時代にも、ルターの時代にも、そして今でも人々の目を隠して真理を悟ることができないようにしています。何が正しいのかが分からないように、より多くのことによって私たちに締め付けています。この中で、私たちはどうすれば真実を悟ることができるでしょうか。今日の福音書36節でイエス様は「もし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる」と言われています。すべてのことをイエス様に委ねてください。神の御子が私たちに罪から解放させることができるように、私たちに自由にすることができるようにしてください。そうすれば、イエス様が私たちに神様の言葉、真理に導いてくださるのです。ルターの話のように、真の真理と自由は罪からの解放から始まると思います。イエス様の真理が皆様を自由にしますように。縛られるものに自由を与えてくださいますように、主の御名によって祈ります。アーメン